

## 揖斐川町学校教育の在り方審議会・北方地区集会（議事録概要）

1 日 時 令和7年11月19日（水）<開会>19時00分 <閉会>20時00分

2 場 所 北方公民館・集会室

3 出席者

審議会委員 小林 直樹

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

学校教育課課長補佐兼係長 高橋 由利

地域住民 22人

### 4 次 第

#### （1）開会挨拶

- ・ 小林委員より、開会の挨拶を行う。

#### （2）概況説明

- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

#### （3）意見聴取

住 民：大野町はすでに小学校と中学校を1校とする方針を出しておる、恐らく池田町もそういった方針になると思われる。揖斐川町として、この地区集会は最終的に小学校や中学校を各1校とする方向で進めることを前提とした話し合いなのか。

教育長：この地区集会は、皆様のご意見を聞くことを目的としたものであり、現時点で特定の決まっている方針はない。ご意見としては、小学校や中学校を各1校にした方がよい、というお考えか。

住 民：今の人口を考えると、1校ずつにするしか仕方がないのではないか。北方小学校の中で同級生が2人だけであれば、同窓会をやる意味がない。だから、「同級生は多い方がよい」というのが私の一番の持論である。

住 民：資料4～5ページにかけて書かれている内容の中で、特にふるさと学習をもう少し深めてほしい。ふるさとへの誇りや愛着がなくなっていることが人口減少の要因だと感じており、ふるさとや親、親戚を大事にするという教育をしていけば愛着心が生まれて、町外に出ていく若者も減り、人口を維持できて、結果的に子どもの人数も増えてくるのではないかと考えている。

住 民：個人的には、各校区での地区集会が終わり次第、町としての方針を早く出すべきだと考える。いつまでもゆっくりと進めていく内容ではなく、各小学校区同士で引き合いをいつまでもしていく仕方はない。統合したからといって人口が増えるわけではないため、非常に難しいところがあると思うが、統合に向けてたとえ半歩ずつでも毎日前へ進んでいくことを肝に銘じてほしい。また、統合後に残された学校をいかに活用するかについて、統合の問題に注力しているうちにはないがしろになってはいけないので、教育委員会に直接関係のない分野だとしても関係部局とチームとなって、それぞれの地域のために使えるようにというところも含めて進めてほしい。いずれにしても、今日何名のPTAの方がいらっしゃっているかはわからないが、そのあたりの意見も把握しながら、町としての方針を速やかかつ正確に出されるとよい。

住 民：今後の流れについて、今年度アンケート調査や地区集会、シンポジウムを行い、来年度中に審議会としてある程度の方向性を出す、ということでおいか。

教育長：整理すると、「学校教育の在り方審議会」というのは町に対して方針を示していただく組織であり、皆様のご意見を聴きながら、今年度と来年度にかけてこれからの中学校はどうあるべきかということを審議していただき、来年度中に今後の方針についての答申をいただくことになる。それを受け、町としての方針をできる限り時間をかけずに出させていただく。

住 民：今日のこの場について、どの程度声かけをされたか。保護者の方が少ないように感じるが、我々は保護者の声を一番聴きたいと感じている。私は久瀬地区に住んでおり、小津小、久瀬小、久瀬中の3つの学校に携わってきた。以前の統合の際には地域住民からも寂しくなるなどといった意見が出ていたが、やはりこうした場合には保護者の方の意見が一番大切だと個人的に思っている。先ほど他の方の意見でもあったが、私もやはり一刻も早く統合に向けて検討していただきたいと考えており、その根底には保護者の方からそういった意見を聞くことが一番大切だと思っているため、どの程度この地区集会について呼びかけたのかをご説明いただきたい。

教育長：昨日は揖斐小学校区で地区集会を行ったが、昨日今日と実施する中で、私どもも保護者世代の方の参加が少ないと感じている。全ご家庭へのチラシの配布や学校・PTAを通じたお知らせは行ったが、なかなか周知が図れなかつたことについては反省点である。もしかするとこの時間は保護者の方にとって外出しにくいのではないか、学校へ行ってこういう会を行うことも一つの方法ではないかということを考えているが、まだまだ周知不足であったと感じている。

住 民：保護者の方にも現状を認識してもらう必要があるため、ぜひ各学校に対して、例えば学校の集会などの時にやってもらいたい。

教育長：今後審議会の中で諮っていく。

住 民：ふるさと学習に関連して、私の母校は北方小学校だが、大学は名古屋の方へ行っていた。その中で、出身について話をするときに、揖斐川町のことを「谷汲山という場所がある」というような説明しかできず、深く掘り下げることができなかつた。そこで、例えば学校が1つになった場合には、それによって揖斐川町の各地域の文化や観光地についてより深く幅広く学ぶことができるようになるのではないか。個人的には、人口減少の中で学校はいずれ1つになるのではないかと思っている。通学がバス通学になるのではないか、どこに学校ができるのか、という不安を他の方からも聞くことがあるが、そういうことよりも子どもの学びというところに重きを置いて検討を進め方よりよいのではないかと考えている。

住 民：私は、やはり子どもたちは町外に出て、成長して帰ってきてくれればよいし、帰っこなかつたとしても地域に愛着をもって、町外で揖斐川町のことを宣伝してくれるのであればその方がよいのではないかと思っている。人口減少は仕方がないことで、今はどの家をみても、跡を継ぐという子どもは1人もいない。近所をみても空き家ばかりで、今後人口が、ましてや子どもが増えるということはないと思う。そのあたりを考えたうえで、取り組んでもらいたい。

住 民：令和6年度に生まれた子どもは、6年後には小学校に入学する。この6年後を見据えて、小学校も中学校も1校にするよう進めた方がよかつたのではないか、と個人的には考える。ただし、例えばやまと・きたがた幼稚園について、きたがた幼稚園とやま

と幼稚園が統合した頃は北方踊りを教えていたが、今はもう教えられないようになってしまった。本当は小さい頃からそういう文化に触れておくことが大事なことであるため、地域の伝統文化についても今後非常に難しいものになるのではないかと思っている。ただし学校については、例えば中学校の部活動も、今は野球部なども遠くに行かなければできないという話であり、早く1校にした方が子どものためになるのではないか。審議する段階はもう過ぎており、もう方向を決めた方が早いのではないか、というのが一住民としての思いである。

住 民：今日出されたご意見には1校に統合した方がよいというものが多く、意外であった。例えば、これは教育とは切り離して考えなければいけない問題ではあるが、今ある小学校や中学校は所在する小学校区における防災拠点になっている。このように、教育だけではなく地域に根差した学校という側面から統合しない方がよいという意見もあり得る。また、先ほど意見があった「広い意味の地域として町全体のことを好きになってもらう」ということは非常によいことだと思う。ただし、私は長年地域を今との区分で捉えてきたために、他の地区のことを自分事として捉えられない感覚があり、これを変えるには大きな努力が必要だと感じている。一方で、それでも変えていかなければいけないという思いもあるし、子どもたちにはそのようにはなってほしくない、揖斐川町すべてが自分のふるさとなのだと考えてもらいたいという思いもある。なので、揖斐川町すべてを広い意味の地域として捉える教育をするためには、子どもたちにそういう教育をするだけではなく、地域の大人にもご理解をいただかないといけないというような壁があるのではないかと感じている。

住 民：ふるさと学習について、以前北方小学校で北方踊りを教えるにあたって、藤橋や久瀬、坂内出身の人もいるので、太鼓踊りが他にもあるということを話してほしいと言われたため、町の16の太鼓踊りについて話をしたところ、子どもたちにも先生方にも目を輝かせながら聞いていただけた。その後、太鼓踊りを藤橋・久瀬・坂内の子たちも含めて発表されたとのことで、こうした取組みが大事ではないかと感じた。また、芽室町への派遣研修に引率した際には、先方で揖斐川町の紹介をするにあたり、それまでの子どもたちが使った資料ではなく改めて何をするのかを考えて準備しており、これも大事なことだと感じていた。学校の統合についてどうしたらよいか、ということは私にはわからないが、いざれは必要なことだと思うので、ふるさと学習を大事にしつつ、統合しても各地域はそれぞれにとってのふるさとであり、また広い意味での地域である揖斐川町全域についてもふるさととして大事にしていくことが大切である。

住 民：今回の意見交換の中で、統合の話や子どもたちが少なくなるという話ばかり出ているが、それをただ仕がないことだと考えるのではなく、例えば子どもを増やすことや町外に出ていかないための方法についても考える必要があるのではないか。例えば近所の方であれば、若い世代で独身の方がいるかどうかはわかる。プライバシーの問題などはあるが、そうした方への出会いを設けることやその後地域に住んでいただく方策など、そのような方向性の動きはないのか。人口が減っていくことは仕がないが、逆に増やす方法についても何か考えていただく必要がある。

住 民：私も複数の学級がある環境で育ってきたが、そうしたたくさんの生徒の中で揉まれるという経験は、社会に出るうえで非常に重要ではないかと思っている。私の孫は岐阜市の大規模校に通っているが、その運動会を見たところ北方小学校のものとはまったく雰囲気が違っており、子どもたちが一体となる姿、そしてお互いに切磋琢磨してい

る姿を見ていると、やはり教育にはそういう社会性の向上という面でも大きな意味があるのではないかと考える。さりとて揖斐川町は広く、仮に小学校や中学校を1校にした場合に、学校と伝統や地域とのつながりをどのようにしていくのか、ということが大きな課題になる。それにはやはり地域の方の理解を得ることが必要であり、また各地域の伝統や文化をどのように引き継いでいくか、ということが統合を決められた場合の大きな検討事項だと考える。また、通学時間についても、今北方小学校に来ていただいている方は7時半頃には小学校近くのバス停に到着していると思うが、より小学校との距離が遠くなる場合には、朝子どもが家を出る時間の問題やスクールバスの事故の問題といったところが大きな課題になるとを考えている。最後に、統合するのであれば、既存の学校に集約するのではなく新しく校舎を建てていただきたい。使われなかつた学校の子どもたちが「統合されてしまった」と思うことがないように、教育を新しく見直すのだという意気込みで校舎を建てていただき、揖斐川町の子どもたちの今後の教育施策を大きく発展させていただきたい。

#### （4）閉会挨拶

- ・ 小林委員より、閉会の挨拶を行う。

以上、閉会